

彙 報

彙 報 第 一

前会長 川 本 茂 雄

昭和58・59年度会長、会計監査委員、委員の選挙結果について

学会会則に基づき、昭和58・59年度の上記役員選挙を、昭和57年12月22日に投票用紙発送、58年1月17日締切り、1月29日開票で行った。その結果は次のとおりである（3月19日付、会長名による「昭和58・59年度本学会各種役員選挙結果の報告」を参照）。

投票総数	160	うち有効投票数	159
会長選挙		投票数	157
		うち有効投票数	145
		白票	0
		無効	12
当 選	井上和子（国際基督教大学）		36票
次 点	柴田 武		21票
次々点	北村 甫		13票

その他の諸委員の選挙結果は次のとおりである。

会計監査委員選挙	投票数	306 (153×2)
	うち有効投票数	249
	白票	11
	無効	46
当 選	国広 哲弥	16票
当 選	下宮 忠雄	14票

次 点	杉藤美代子	11票
次々点	北村 甫	10票

委員選挙 当選者（五十音順）

（1）北海道（1名）

池上二良

（2）東北（2名）

加藤正信，中村完

（3）関東（32名）

飯豊毅一，池上嘉彦，石綿敏雄，井上史雄，梅田博之，上野善道，大江孝男，大東百合子，大野 晋，奥津敬一郎，亀井 孝，北村 甫，金田一春彦，日下部文夫，グロータース・W・A，柴田 武，田村すゞ子，寺村秀夫，徳永康元，長嶋善郎，野元菊雄，服部 健，林 大，原 誠，平山輝男，三根谷徹，宮岡伯人，三宅 鴻，宮島達夫，村山七郎，矢島文夫，湯川恭敏

（4）中部（8名）

小泉 保，佐藤 茂，沢田治美，清水克正，都竹通年雄，日野資純，藤本幸夫，松本克己

（5）近畿（19名）

池上碩造，井本英一，岩倉具忠，岩本 忠，北嶋静江，五島忠久，近藤達夫，阪倉篤義，崎山 理，柴谷方良，庄垣内正弘，杉藤美代子，塚本 勲，林 栄一，蛭沼寿雄，堀井令以知，前田富祺，山末一夫，吉田金彦

（6）中国・四国（4名）

古浦敏生，関本 至，竹内和夫，吉川 守

（7）九州・沖縄（3名）

今津藤一，大江三郎，屋比久浩

* 関東地区委員は，井上和子氏が会長に，国広哲弥，下宮忠雄両氏が会計監査委員に当選したため，次点者以下3名が繰上げ当選となった。

上記のほか北海道地区では塩谷饒氏，関東地区では河野六郎氏が当選したが辞退した。

昭和58・59年度常任委員と編集委員長の選挙の結果について

選挙規則に基づき、58年3月末で任期満了の常任委員に代わる新常任委員の選挙を、郵便投票（58年2月28日締切）によって行った。3月12日に開票、以下の各氏が当選した。

常任委員選挙	投票総数	36
	うち有効投票数	36

当選者

A 大地区（北海道・東北） 池上二良

B 大地区（関 東） 湯川恭敏，野元菊雄

C 大地区（中 部・近 畿） 小泉 保

* B 大地区常任委員は、梅田博之，大江孝男，北村甫の3氏が辞退したため湯川恭敏氏が繰上げ当選となった。

同時に行った新編集委員長の選挙結果は次のとおりである。

編集委員長選挙	投票総数	36
	うち有効投票数	36

第一位以下の当選者、大束百合子，北村甫，徳永康元の3氏が辞退したため、奥津敬一郎氏が当選と、3月19日付で報告したが、海外出張中だった奥津氏が帰国後辞退した（4月2日付）ため、新会長にこの件に関する事務の継続を依頼した（以上、前会長の報告）。

その結果、次のように決定した（新会長の報告）。

当 選 松本克己

5月10日付、前会長・新会長兩名による「昭和58・59年度本学会編集委員長選任に関する報告」参照。

昭和57年度会計報告

昭和57年度決算は下記のとおり確定し、4月6日に会計監査を受け、監査委員の承認を得た。

昭和57年度日本語学会決算表

自 昭和57年4月 至 昭和58年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	6,507,120	1 刊 行 費	2,963,618
C 雑 誌 売 上	141,700	2 編 集 費	35,000
D 文 部 省 補 助 金	700,000	3 発 送 費	350,005
E 預 金 利 息	48,946	4 大 会 関 係 費	813,744
F 雑 収 入	56,600	5 委 員 会 費	21,520
		6 常 任 委 員 会 費	65,110
		7 九 学 会 連 合 会 費	50,000
		8 C I P L 負 担 金	50,350
		9 選 挙 関 係 費	1,159,619
		10 通 信 費	115,486
		11 事 務 費	370,184
		12 事 務 所 賃 借 料	60,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	1,182,675
		16 雑 費	12,815
		支出合計	7,250,126
収入合計	7,454,366	15 選 挙 関 係 等 準備積立金	600,000
A 前 期 繰 越	2,541,412	17 次 期 繰 越	2,145,652
計	9,995,778	計	9,995,778

○ 収 入 内 訳

F 雑 収 入	早稲田大学からの補助金	50,000
	寄付金	3,000
	「言語研究」抜刷増刷代	3,600

○ 支 出 内 訳

1. 刊 行 費	第82号	1,481,067
	第83号	1,482,551
3. 発 送 費	第82号他	168,684
	第83号他	181,321
4. 大会関係費	第84回大会	342,187
	第85回大会	471,557
5. 委員会費	第1回	9,280
	第2回	12,240
6. 常任委員会費	第1回	27,550
	第2回	37,560
9. 選挙関係費	名簿印刷費	510,446
	名簿発送料	255,536
	名簿作成作業謝金	147,875
	投票用紙, 封筒代等	99,803
	切手代	132,960
	選挙管理委員会経費	12,999

◇ 物故会員

加藤 元一（昭和57年6月15日逝去）

倉又 浩一（昭和57年11月27日逝去）

平野多恵子（昭和56年5月13日逝去）

朴 汝文（昭和58年1月20日逝去）

村田忠兵衛（昭和57年5月27日逝去）

和田賀一郎（昭和56年11月22日逝去）

受贈図書リスト（昭和57年10月1日～昭和58年3月31日）

- カナノヒカリ ダイ 723—728 ゴウ (カナモジカイ 1982-83)
- 計量国語学 13巻7号—8号 (計量国語学会 1982-83)
- 研究論集 第36—37号 (関西外国語大学 1982-83)
- 言語学研究 第1号 (京都大学言語学研究会 1982)
- 言語研究の中の計算機 (計算機利用言語学研究会 1982)
- 考古学雑誌第68巻第2号 (日本考古学会 1982)
- 語学研究 第31—32号 (拓殖大学語学研究所 1982-83)
- 国語学 第131集〈2冊〉 (国語学会 1982)
- 国語表現研究 創刊号 (国語表現研究会 1982)
- 国立国語研究所年報 第33号 (国立国語研究所 1982)
- 国立民族学博物館研究報告7巻2-3号, 別冊1号
(国立民族学博物館 1982-83)
- 語言研究 1982年 第2期 (Institute of Chinese Linguistics
Huazhong University of Science and Technology 1982)
- 宗教研究 第56巻 第2-3輯 (日本宗教学会 1982)
- 人類学雑誌 第90巻第4号, 第91巻第1号, 別号 (日本人類学会 1982-83)
- 聖書翻訳研究 No. 20 (日本聖書協会 1982)
- 専修語学ラボラトリー論集 第11号〈2冊〉 (専修大学LL研究室 1982)
- 朝鮮学報 第百三輯 (朝鮮学会 1982)
- 通信 第45-46号 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1982)
- 東亜大学研究論叢 第6巻 (東亜大学学術研究所 1982)
- 都大論究 第19号 (東京都立大学国語国文学会 1982)

名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 7

(名古屋学院大学外国語教育研究センター 1982)

日本学術会議月報 第23巻 第8-12号, 第24巻 第1-2号

(日本学術会議広報委員会 1982-83)

日本常民文化紀要 第八輯 (II) <2冊> (成城大学大学院文学研究科 1982)

日本民俗学 第142-144号 (日本民俗学会 1982)

比較文化雑誌 Vol. 1 (東京工業大学比較文化研究会 1982)

方言研究年報 続七 (広島方言研究所 1982)

法政大学文学部紀要 第28号 (法政大学文学部 1982)

放送文化 1982年 11月, 12月号, 1983年1月~4月号

(日本放送出版協会 1982-83)

みんぱく 1982年10月~12月号, 1983年1月~3月号

(民族学振興会 1982-83)

山形女子短期大学紀要 第14集 (山形女子短期大学 1982)

山口大学教養部紀要 第16巻 人文科学編, 第16巻 自然科学編

(山口大学教養部 1982)

山口大学文学会志 第33巻 (山口大学文学会 1982)

論集 第30号 (神戸大学教養部 1982)

alsed No. 27-29 (UNESCO 1982-83)

Archiv Orientalní Vol. 50 No. 3 (Academia Praha 1982)

Nguyen Hoai Nhan *The Early Civilization of Viet-nam*

and Southeast Asia (Nguyen Hoai Nhan 1976)

Exlibris (Une Division d' Europeriodiques, s. a. 1982)

Lexicon No. 11 (岩崎研究会 1982)

Linguistique et Littérature 1-3 (Academie Bulgare des Scincees 1982)

Literature, Music, Fine Arts Vol. XV No. 2

(German Studies Section III 1982)

Litteratura 3 (名古屋工業大学外国語教室 1982)

Malsori (Phonetics) No. 4 (The Phonetic Society of Korea 1982)

- Multilingua* Vol. 1-1 (Mouton Publishers 1982)
- Naše Řeč* 3-5
(Academia Nakladateství Československé Akademie věd 1982)
- Nguyen Hoai Nhan *The Occupational of the Viet-nam by China*
(Nguyen Hoai Nhan 1977)
- Slovo a Slovesnost* 3 XLIII. 1 XLIV
(Academia Nakladateství Československé Akademie věd 1982-83)
- Studies in Generative Grammar and Language Aquisition*
(国際基督教大学語学科 1983)
- Вестник Ленинградского Университета* No. 20 (Ленинград 1982)
- Русская Литература* No. 3-4 (Академия Наук СССР 1982)
- Русский Язык в Школе* 4-6 (Москва 1982)
- Українська Мова і Література в Школі* 9-12, 1, 2
(Київ Радянська Школа 1982-83)

彙 報 第 二

会 長 井 上 和 子

昭和58年度第1回常任委員会

日 時：4月9日（土）午後2時～4時30分

場 所：国際基督教大学，E R B-247号室

出席者：井上和子（会長），池上二良，日下部文夫，小泉 保，田村すゞ子，野
元菊雄，湯川恭敏

欠席者：2名（いずれも委任状あり）

議事ならびに報告：

- (1) 東京都区内在住の常任委員にも，旅費を支給する。
- (2) 奥津敬一郎氏の編集委員長辞退にともなう選考方法について。58年3月12日の開票結果の順位に基づき会長が就任依頼をすることに決定。
- (3) 昭和58年度予算編成上の注意事項（制度検討委員会のための費用を計上する）
- (4) 制度検討委員会の構成について。
- (5) 維持会費変更について。

昭和58年度第2回常任委員会

日 時：5月7日（土）午後1時30分～5時

場 所：国際基督教大学，E R B-247号室。

出席者：井上和子（会長），日下部文夫，小泉 保，田村すゞ子，野本菊雄，
湯川恭敏

委任状：3名

オブザーバー：松本克己（編集委員長），村木正武（事務局）

報告および議事：

- (1) 事務局職員として，村木正武（主任），濱口幸一，渡辺恭子が紹介され，承認される。

- (2) 第86回大会（6月11, 12日, 一橋大）のプログラムの作成。
- (3) 昭和57年度決算報告。
- (4) 昭和58年度予算案の作成。
- (5) 第87回大会の企画, 開催校の選定について。
- (6) 松本克己氏が編集委員長, 上野善道, 小泉保, 寺村秀夫, 中本正智, 長谷川欣佑, 湯川恭敏の6氏が編集委員となる。編集委員名は『言語研究』の表紙の裏に載せる。
- (7) 制度検討委員会の委員は5名とする。内1～2名は常任委員から, 他は一般会員から選出する。維持会員の件も審議の対象とする。昭和59年秋の委員会までに改正案を用意する。

昭和58年度第1回委員会

日 時：6月11日（土）午前10時～午後1時15分

場 所：一橋大学本館一階特別応接室

出席者：井上和子（会長）, 池上二良, 岩本 忠, 上野善道, 大東百合子, 小泉保, 近藤達夫, 阪倉篤義, 崎山 理, 沢田治美, 柴田 武, 庄垣内正弘, 杉藤美代子, 関本 至, 竹内和夫, 田村すゞ子, 都竹通年雄, 徳永康元, 野元菊雄, 原 誠, 日野資純, 堀井令以知, 前田富祺, 松本克己, 三宅 鴻, 村山七郎, 矢島文夫, 湯川恭敏, 吉川 守（以上29名）

委任状：29名

オブザーバー：服部四郎（副会長）, 下宮忠雄（会計監査）, 寛 寿雄（第87回大会運営委員長）, 村木正武（事務局）

故泉井久之助氏（副会長）の冥福を祈って黙禱。

報告および議事

- (1) 事務局職員委嘱（第2回常任委員会報告参照）。
- (2) 第1回, 第2回常任委員会報告。
- (3) 昭和57年度決算報告があり, 承認される（別表1参照）。
- (4) 昭和58年度予算が一部修正（事務所賃借料, C I P L分担金の増額）の上承認される（別表参照）。

- (6) 選挙管理委員が投票により、下記のように選出される。

井上史雄，大東百合子，奥津敬一郎，風間喜代三，日下部文夫，田中克彦，田村すゞ子，三根谷徹，次点（次の順に）：上野善道，宮岡伯人，徳永康元，石綿敏雄。* 三根谷徹氏辞退のため，徳永康元氏が繰上げ当選となった。上野善道氏は風間喜代三氏と同一機関（東京大学）に属し，宮岡伯人氏も井上史雄氏と同一機関（東京外国語大学）に属しているため繰上当選とはできない。

- (6) 制度検討委員が投票により、下記のように選出される。

小泉 保（常任委），柴田 武，田村すゞ子（常任委），堀井令以知，松本克己，次点：池上二良（常任委），上野善道。

- (7) 制度検討委員会の審議事項として，委員の選出方法と任期，選挙の時期，維持会員の件を含める（昭和57年度第2回委員会報告参照）。現行会則作成の理念，会長等の経験者の意見を考慮する。昭和59年秋の委員会までに，改正案を用意する。
- (8) 第87回大会は，10月15日（土），16日（日），神戸大学において行われる。
- (9) 松本克己氏から編集委員名を『言語研究』表紙裏に載せることについての要望が出され，承認される。

昭和58年度日本語学会予算表

自 昭和58年4月 至 昭和59年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 前期繰越	2,745,652	1 刊行費	4,000,000
B 会費	6,883,650	2 編集費	250,000
C 雑誌売上	150,000	3 発送費	500,000
D 文部省補助金	700,000	4 大会関係費	900,000
E 預金利息	50,000	5 委員会費	30,000
		6 常任委員会費	500,000
		7 九学会連合会費	50,000
		8 C I P L負担金	100,000
		9 選挙関係費	50,000
		10 通信費	300,000
		11 事務費	800,000
		12 事務所賃借料	100,000
		13 事務局職員謝金	1,200,000
		14 予備費	920,000
		15 選挙関係等 準備積立金	800,000
		16 雑費	29,302
計	10,529,302	計	10,529,302

第86回大会

期 日 1983年6月11日(土)・12日(日)

会 場 一 橋 大 学

第1日(6月11日)

開会の辞

公開講演(午後2時より)

「かなづかいと正書法」

亀井 孝

「文一文法と談話文法の接点」

井上 和子

会員懇親会(午後5時30分より)

第2日(6月12日)

研究発表(午前9時30分～12時15分)

○ A 会 場

(A 1) 二重目的語構造の再構成化分析

岩田 龍二

(A 2) 英語の感覚動詞補文について

西 泉

(A 3) 言わゆる他動詞陳述構文について

安井美代子

(A 4) てある構文について

川崎 典子

(A 5) 文のモナド化傾向

高橋 孝二

○ B 会 場

(B 1) くり返し表現における結束性について

霜崎 実

——『坊ちゃん』における考察——

(B 2) 場所関係の三方向性の表示

早稲田みか

——ハンガリー語と日本語の比較対照研究——

(B 3) アイヌ語の場所表現と名詞の所属形

中川 裕

(B 4) 単文の普遍的分類について

菅野 憲司

(B 5) 凍結句と音声ハイエラキ

村田 忠男

会員総会(午後1時30分～1時50分)

研究発表(午後2時～4時)

(6) 形の意味と意味の形—— \bar{X} 削除と再分析——

坪本 篤朗

(7) 北ユーラシア諸語における引用表現

庄司 博史

(8) マリ (チエレミス) 語の名詞節

松村 一登

(9) 言語類型学の一指標としての畳語

矢島 文夫

閉会の辞

◇ 物故会員

泉井久之助（昭和58年5月28日逝去）

◇ 受贈図書リスト（昭和58年4月1日～昭和58年6月15日）

大阪教育大学紀要 I 人文科学 第31巻 第1・2号, 第3号

（大阪教育大学 1982-83）

音声科学研究 XVI （京都大学音声科学総合研究部会 1982）

カナノヒカリ ダイ729-730 ゴウ （カナモジカイ 1983）

言語学論叢 第2号 （筑波大学一般・応用言語学研究室 1983）

言語文化研究 IX （大阪大学言語文化部 1983）

考古学雑誌 第68巻 第3号 （日本考古学会 1983）

神戸大学教養部紀要 （神戸大学教養部 1983）

語学研究 第33号 （拓殖大学語学研究所 1983）

国立民族学博物館報告 第7—8巻 （国立民族学博物館 1982-83）

宗教研究 第56巻 第255号 第4輯 （日本宗教学会 1983）

人文論叢 No. 8 （東京工業大学 1982）

- 人類科学 第35集 日本の風土 (九学会連合事務局 1982)
- 中世ノブゴロドの言語と文化 (日本古代ロシア研究会 1983)
- 朝鮮学報 第百四輯—百六輯 (朝鮮学会 1982-83)
- 東方学 第65号 (東方学会 1983)
- 東洋音楽研究 第47号 (社団法人東洋音楽学会 1982)
- 都大論究 第20号 (東京都立大学国語国文学会 1983)
- 新潟大学教養部紀要 (新潟大学教養部 1983)
- 日本学術会議月報 4月号—5月号 (日本学術会議事務局 1983)
- 文学研究 第八十輯 (九州大学文学部 1983)
- 放送文化 5月号—6月号 (日本放送出版協会 1983)
- 民族語文 (Minzu Yuwen) 1-2
(Chinese Academy of Social Sciences 1983)
- みんぱく 4月号—6月号 (民族学振興会 1983)
- 山口女子大学研究報告 第8号 (山口女子大学附属図書館 1982)
- 立正大学国語国文 第19号 (立正大学国語国文学会 1983)
- Acta Asiatica* 44 (東方学会 1983)
- Annali* Vol. 42 (Istituto Orientale Di Napoli 1982)
- Annual Reports* Vol.8 (I. C. U. Division of Languages)
- Descriptive and Applied Linguistics* Vol. XVI (I. C. U. 1983)
- Linguistique Et Litterature* (Academie Bulgare Des Sciences 1982)
- Literature Music fine Arts* Vol. XVI
(German Studies Section III 1983)
- Naše Řeč* 1
(Academia nakladatelstvi Ceskoslovenske akademie ved 1983)
- Solla Sfera Armillare* (Istituto Orientale Di Napoli 1982)
- Вестник Ленинградского Университета* No. 2 (Ленинград 1983)
- Русская Литература* 1 (Академия Наук СССР 1983)
- Русский Язык в Школе* 1 (Москва 1983)
- Українська Мова и Литература в Школи* 3-4

(Київ Радянська Школа 1983)

◇ 本誌は文部省昭和58年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。

* * *

『言語研究』第83号所載の拙文「第13回国際言語学者会議報告」の中に不正確な記述がありましたことを謹んでお詫びし、次のように訂正いたします。

- 157 ページ 13行目 UNESCO → CIPSh
 159 ページ 4行目 「服部四郎博士ご編纂の → 「服部四郎博士指導の下に編纂された
 159 ページ 5～7行目 この辞典は正確にいうならば……まとめたものである。→ 全文削除

国 広 哲 弥

正 誤 表 (『言語研究』83号分)

ページ	行	誤	正
3	6	こそそのや何	こそそのや何
5	10	á	à
6	5	Baully	Bally
8	1	морфем	морфема
11	26	Jokobson	Jakobson